

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2025
春
No.53

JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education
学園だより

上越教育大学 教職大学院の学校実習

特集

学校支援 プロジェクト

教員就職率 全国トップクラス!

学校教育学部 **83.7%** 教員就職 **123名**
全国第2位

教職大学院 **84.3%** 教員就職 **97名**
(現職教員を除く)

※令和6年3月卒業・修了者の就職状況



理論と実践を
融合した教員に

研究室

ようこそ

研究を通して理科教育の発展に貢献を

私の大学教育者としての信条は、生涯に渡って自律的に学び続けようとする意志を持った教員の養成に尽力することです。なぜなら、「研究する教師」は教育現場において必要不可欠な存在であり、教師が専門職であるための条件であると考えます。さらに、「研究する教師」は、自ら「問い」を見いだし、自分で調べ考えたり、他者と議論したりしながら結論を導き出すとともに、具体的かつ重層的な実践を可能にします。

また、人間は本来、知的好奇心や向上心を持っているため、私はそれらを学生から引き出すことを心掛けています。具体的には、研究の面白さに触れて興味を持ったり、リサーチ・スキルを身に付けさせたりしながら、徐々に学生個々の主体的な研究に移行していくようなカリキュラムを工夫しています。

可能性を最大限に引き出す研究室

先行研究において、理科を苦手とする高校生が大学入学後も自然科学を十分に学ぶこと

山田 貴之(やまだ たかゆき) 自然生活教育学系 教授
岐阜県出身。兵庫教育大学大学院修了。博士(学校教育学)。2018年4月着任。専門は理科教育学。主な研究内容は「小学生の問題解決の力および中高生の科学的な探究の能力を育成する指導法の開発」「小中高の理科教科書の分析」等。担当授業科目は「初等理科指導法」「科学的リテラシーのための授業設計論」等。ラグビー部顧問(選手としてフルタイム試合に出場することが目標)。座右の銘は「迷ったから厳しい方を選ぶ」。

山田研究室ホームページ
(理科が苦手な方も大歓迎)



やりたい事が見つかる大学

上越教育大学の良さ

大学に入学して一番良かったことは熱い心を互いに語り合える仲間ができたことです。教育大学ということもあり、教員になりたくて入学してきた人がほとんどを占めています。自分の理想の教師像や教育観について語り合える機会が多く、その度に新しい考えや気づかなかった視点に驚き、刺激を受けました。3年生になった今でも教育の問題について語り合う人がいて非常に充実した生活を送れていると思います。

様々な専門分野の先生方が集まっていることに加えて一学年の人数が160人程度と少人数であることもこの学校の良さであると思います。現在、私は国語コースに入っているのですが他コースの専門授業も履修しています。大学に入る前にどんな分野に自分が興味があるかなんて決められないし、入学した後に変わることであると思います。特に多方面に興味、関心がある人にはおすすめの大学であると思います。また少人数であるため、先生方から専門分野の勉強を手厚く指導していただけます。部活に入らなくても、授業を通して多くの友達ができる大学だと感じます。

力を入れていること

私は興味のあること、新しいことがあれば考える前に行動するようにしています。国語コースに入っているのですが、英語や美術の授業をとることで日々新しい発見があります。毎日どれだけ情熱的になれるかを考えて生活しています。

将来なりたい自分

子供が思い悩んだ時、相談しようと思える先生になりたいです。子供から見て、この人なら問題を解決してくれるといった信頼感を感じられる先生になれば最高です。



学部3年
教科内容構成コース
(国語領域)
やまだ たかゆき
山田 芳尚 さん

学校現場に足を運び、抱える課題とともに向き合い、学びを深める——
上越教育大学 教職大学院の学校実習

学校支援プロジェクト

教職大学院での学びは「学校実習」を中核としており、教育実践力を育成するため修了要件45単位以上のうち10単位以上の履修が課せられていることが特徴です。ここでは、本学教職大学院独自で、学校現場が抱える課題や取り組みに対して連携協力しながら解決していく「学校支援プロジェクト」の仕組みについて説明します。

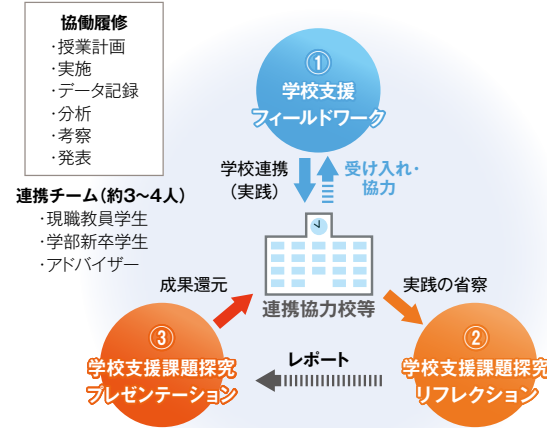
1 本学教職大学院の「学校支援プロジェクト」とは

本学の専門職学位課程（教職大学院）には、学校教育における総合的かつ汎用的専門性の育成に加え、先進的な教科等の指導や実践、または発達支援を推進するための高度な専門職を育成する19の領域・分野が設置されており、実践的な指導力を身につけるため、高度で専門的な「学校支援プロジェクト」を課しています。

「学校支援プロジェクト」は、学校現場が抱える課題や取り組んでいる主題等の解決を支援するものとして、次の構成で実施しています。

①「学校支援フィールドワーク」では、実際に学校現場に入って支援を行い、②「学校支援課題探究リフレクション」では、フィールドワークの内容を省察・共有し、改善策の検討を行います。③「学

校支援課題探究プレゼンテーション」では、自分たちの取組成果を学校へ提案としてまとめ、連携協力校に還元します。これら一連の活動を通して、臨場力・協働力を高め、即応力を身に付けるというコンセプトです。



学校支援プロジェクトの概念図

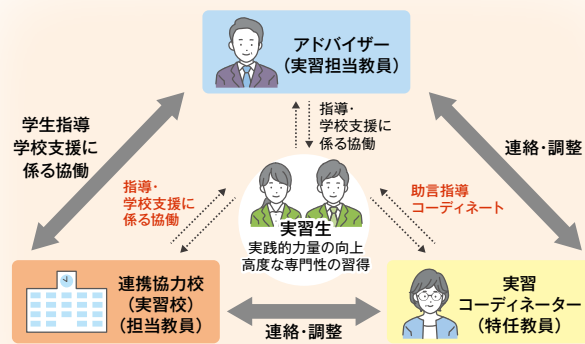
2 「次世代の教員をこの地で育てる」ために

連携協力校での実習とそれを支える「学校実習コンソーシアム上越」

学校支援フィールドワークは、多くの大学院生が学校現場に入ることから、本学と上越市、柏崎市、糸魚川市、妙高市の教育委員会及び校長会が、次世代の教員をこの地で育てようという意識を共有し、学校実習を組織的に管理することで、真に実質化された実習として円滑な実施を図るために、相互の連携のもと、「学校実習コンソーシアム上越」を構成しています。これにより、4市の小学校・中学校・特別支援学校及び教育委員会等の教育機関を連携協力校とできる体制を確立し、原則この4市の連携協力校で実習を行うこととなっています。

実習生の指導体制

本学教職大学院では、各学生の指導教員をアドバイザーと呼びます。学校支援プロジェクトは、それぞれの学生が選んだアドバイザーの指導のもとに、主に同じアドバイザーが指導する学生でチームを組み、そのチーム単位で実施します。また、実習コーディネーターとして特任教員を配置し、実習生に対し、助言や指導等を行いながら、学校支援プロジェクトを支えています。

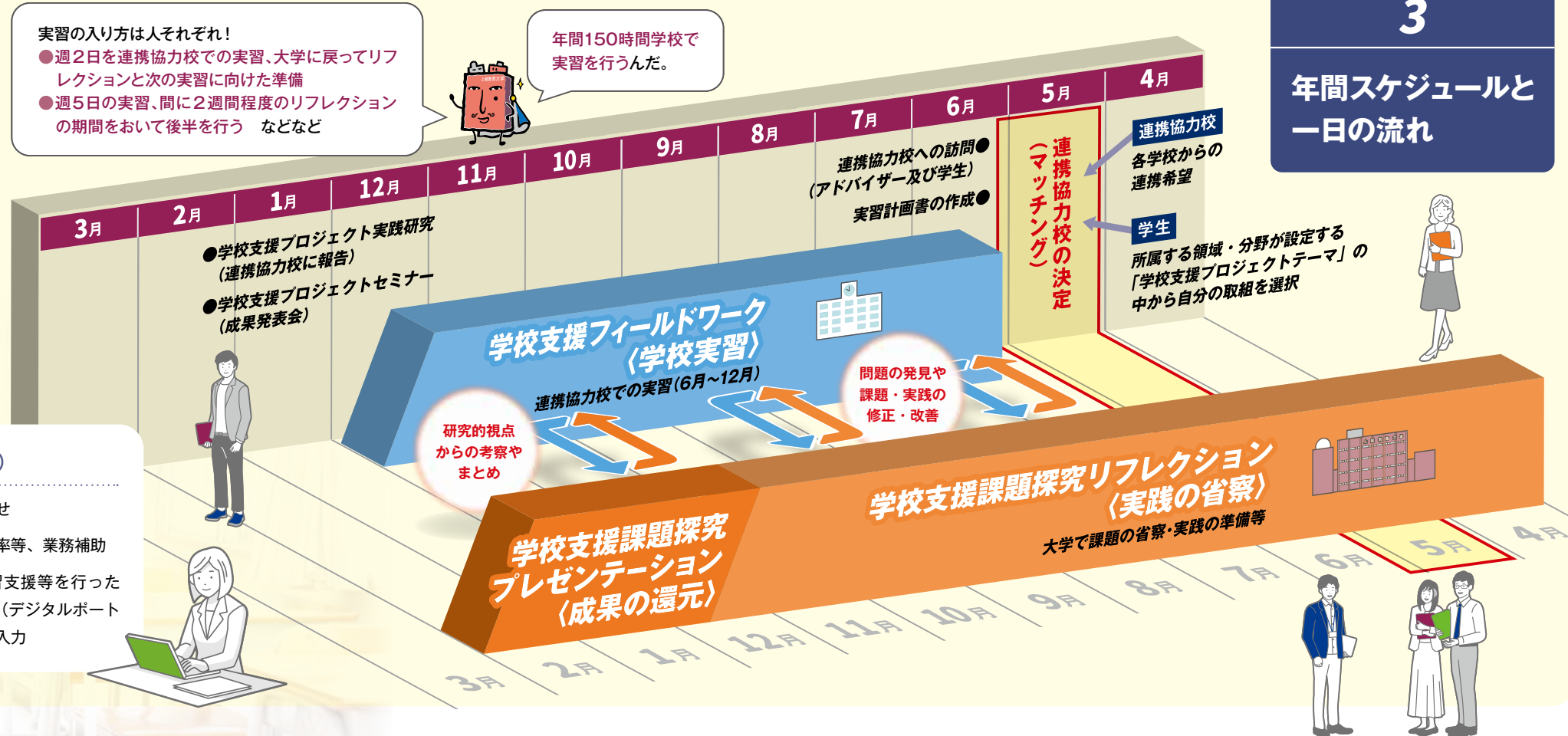


学校支援プロジェクトにおける実習生の指導体制



3

年間スケジュールと一日の流れ



私の一日（1日の流れの例）

- 朝 連携協力校で1日の打合せ
- 午前 授業実践や校外学習の引率等、業務補助
- 午後 授業実践や放課後の学習支援等を行った後、大学に戻り、e-box（デジタルポートフォリオ）に活動記録を入力

実験っておもしろい！話し合って新発見！みんなで見つける理科の楽しさ！
理科を中心とした主体的・
対話的で深い学びの実現を
目指す学校支援

- 研究室名…谷研究室
(アドバイザー 谷友和准教授)
- チームの人数…9名
- 連携協力校…上越市立八千浦小学校、糸魚川市立根知小学校

私たちは、深い学びの実現を目指すため、理科の授業を中心とした支援を行いました。主に行ったことは3つです。
1つ目は、理科実験クラブの指導です。植物の種子を模した紙飛行機で実験を行い、児童が相談しながら活動ができるように活動内容を工夫しました。

2つ目は、3年生の「音の性質」の授業です。紙コップを使った教具「魔法のコップ」をみんなで作って、楽しみながら授業を行いました。

3つ目は、理科以外の授業の補助です。低学年を中心とした算数授業の支援や校外学習の引率の手伝いなどを行い、児童との距離も縮めることができました。



理科だけでなくさまざまな支援を通し、学校や子どもたちの雰囲気、様子を感じ取ることができ、学び深い経験ができました。

大学院1年 学部新卒学生
教科教育・教科複合実践研究コース
自然科学領域 理科分野
遠藤 瞭汰さん

アドバイザーからのメッセージ

子どもたちと向き合うことの楽しさ、教えることの難しさ、授業がうまくいった時の嬉しさ、思い通りにいかなかった時の悔しさ。座学では得られない珠玉の体験と刺激を通じて、チーム谷研メンバーは日々、教師力をアップさせています。理科コースだけあって、支援で使う理科教材には、愛と苦悩とこだわりが詰まっています！



共感的な関係づくりとあたたかな教室文化の
創造が自治的集団を育てる
共感的な人間関係構築を通した
自治的集団の育成

- 研究室名…赤坂研究室
(アドバイザー 赤坂真二教授)
- チームの人数…5名
- (現職教員学生2名・学部新卒学生3名)
- 連携協力校…上越市立高志小学校

本プロジェクトでは、共感的な人間関係を構築するための価値やスキルを実践的に育成する場である「クラス会議」を手立ての柱としました。

チーム内では立場や経験の違いはあれど、研究者としては対等な立場です。お互いの願いや思い、考えを話し合いながらチームとしての方向性や考えを作っていました。また、連携校の先生方とも週に1回話し合う時間を設け、目指す子どもの姿や手立て、方向性を確認してきました。

教育実習とは異なり、長期間にわたって、学校課題の解決に向けて「協働」しながら歩めることは、人として、教師を目指す者として得るものが多くあると思います。実践だけでなく、その背景にある思いや理論を現場の先生方と対話できることは、現場に出た後につながると感じています。

●協力校の先生の声

目標を共有し、それに向かう過程を協働することができ、大変ありがたかったです。

3ヶ月の間に、子どもの確かな成長を感じました。その成長を多くの目で見ていただきフィードバックしていただいたこともありありがたかったです。



●協力校の子どもたちの声

クラス会議を始めてから、クラスが仲良くなった感じがします。学校がもっと楽しくなりました。



現場の雰囲気を感じたり、現場の先生方、現職院生の子どものへが接し方などを間近で学ぶことができ、貴重な経験になりました！



大学院2年 現職教員学生
学校教育実践研究コース
学級経営・授業経営領域
目黒 幸士郎さん



アドバイザーからのメッセージ

これまで学校連携にかかわってくださった学校現場の皆様、そして歴代の院生たちが、学校を少しでも良くしたいという願いのもとに主体的にプロジェクトに関わることで、学校現場と大学のwin-winが築かれているように思います。修了生の皆さんがゼミに関係なく学校職員と院生のコーディネートをしてくださっていることが大きな推進力になっています。



実践の省察

「学校支援課題探究リフレクション」

連携協力校でフィールドワークを行いながら、大学に戻り、その内容をチームで共有し、アドバイザーからの指導助言を得ながら課題についての改善策を検討することにより、さらに充実した実践へ向けた準備をします。リフレクションは、研究室やチーム単位で実施するだけでなく、領域・分野ごとに全体で実施することもあります。



成果の還元

「学校支援課題探究プレゼンテーション」

チームの活動の成果を『学校支援プロジェクト実践研究』にまとめ、連携協力校に対して成果発表を行うことで還元します。また、教職大学院全体としても、2月に「学校支援プロジェクトセミナー」を開催し、広く地域へ成果の還元をします。

学校課題に対峙するなかで
「教師としての力量」を高める



副学長
(学校実習担当)
志村 喬先生

本学の学校実習は、大学が所在する近隣4市の教育委員会及び校長会と協働することで100校を超える地元の小学校・中学校等が連携協力校(実習校)となっていること、実習校の教育的課題に対し19もの領域・分野の研究室が擁する多様な知を活用して実践的課題解決を試みることが大きな特長です。この学校実習も踏まえ、学校現場と大学とが密に連携した「学校支援プロジェクト」遂行のなかで、学生一人一人が「教師としての力量」を高める体制が整っています。



卵焼き用フライパン LOVE♥

最近は卵焼きがマイブームなのでよく作って食べています。卵焼き用のフライパンは丁度よいサイズ感で使いやすいです。

IHよりガス派!

外山 皓士
学部2年



出汁にこだわり!

調味料は和風なら出汁、洋風ならコンソメを使っておけばよし!
余っている食材の名前でネット検索をして料理をしています。

匿名希望
学部3年



編集後記

私たちは、大学生になって初めて一人暮らしを経験し、自炊をするようになりました。先輩や友達の自炊事情について教えてもらって、様々な工夫や楽しみ方があったため、私たちも真似したり、自分なりの工夫や楽しみ方を見つけていきたいと思います。最後に、取材に協力してくださった皆さんありがとうございました!!

更科 歩美
学部2年 幼年教育コース

毛利 夢
学部2年 幼年教育コース

カット済み 冷凍野菜で時短!

特に冬場には、鍋料理の食材を切って1食ごとに冷凍保存。食べるときは鍋に食材と鍋のたれを入れるだけで料理が完成します。部活終わりなどの夜遅くになってしまったときに重宝します。

匿名希望
学部2年



お弁当作ってます!!

お弁当を作って学校に持って行っています。週末にきんぴらとか冷凍できるものを一気に作るのがポイント。朝は詰めるだけ。硬い野菜はレンジにかけます。時短になるためです!

匿名希望
学部3年



自炊メシの ススメ

学生がつくる
上教大生のひろば

大学入学を機に一人暮らしや寮生活をスタートする上教大生はたくさんいます。勉強や部活に励む上教大生にとって、毎日の食事がエネルギーの源。そこで、得意なメニューやおすすめの調理器具、時短テク、寮生活での工夫……。『自炊』にまつわるアレコレを語ってもらいました!



寮生活ならではの 工夫!

学生宿舎では補食室へお皿を洗いに行くのがちょっと面倒なので、お皿をなるべく使わないようにしたり、洗い物を少なくする工夫をしています。

大野 真結香
学部2年



電気圧力鍋 おすすめです★

盛り付けを考えるようにしています。簡単な料理でも彩りを意識するだけで華やかで手が込んだ料理に見えるからです。

短時間で調理ができる電気圧力鍋がおすすめ。切った食材を入れておくだけで完成するメニューもあります!

石黒 葵衣
学部2年



一緒に食べれば おいしさ2倍!

週に2回、友達とごはんを作りあっています。自分の分だけだとだるく感じる料理も誰かのためなら頑張って楽しみながら作られています。友達と一緒に食べればおいしさも2倍!

松井 千夏
学部2年



民主社会の発展に寄与
する、人間性豊かな、
たくましい生徒を育成
する「3つの合言葉」

附属中学校は、「民主社会の発展に寄与する、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する」という教育目標のもと、生徒は生き生きと輝く学校生活を送っています。今回は、「確かな学力」「響く歌声」「あふれる探求心」という当校の3つの合言葉を基に、生徒の活動をピックアップして紹介します。（文責：主幹教諭 岩船尚貴）

附属学校だより



2学年沖縄修学旅行

確かな学力 — 教育研究協議会 —

今年度は「創造性に着目した各教科の単元開発」を研究主題として、各教科で単元を構想し、授業実践を行いました。10月18日（金）に行った教育研究協議会には、全国から221名の申込みがあり、生徒が創造性を発揮しながら「確かな学力」を身に付けていく姿を、参加者の皆様から見ていただきました。



2学年家庭科
「私のためのフェーズフリーな防災」

3学年国語科
「令和に受け取る鲁迅のメッセージ」



響く歌声

— 年2回の合唱コンクールと歓迎合唱 —

当校では、春と秋に合唱コンクールを行っています。生徒たちは合唱を通して仲間との絆を深め、成長を遂げていきます。

また、入学式や教育研究協議会では、3年生による歓迎合唱が行われます。入学生は上級生の姿に憧れて、「響く歌声」の伝統が脈々と引き継がれています。



秋の合唱
コンクール

3学年生徒による
入学式での歓迎合唱



あふれる探求心 — わくわく大学デー —

上越教育大学の先生方から特別授業を受けることができる当校ならではの活動のひとつです。今年度は9月3日（火）に行われ、林 泰成学長をはじめ、13名の大学の先生方からご協力をいただき、講座を開講しました。生徒は大学の専門的な学びに目を輝かせ、「あふれる探求心」で学んでいました。

林 泰成学長講座
「大学で何を学ぶか」



伊藤 将和先生講座
「色鉛筆で描く」



修了生からの
お便り



「学ぶ喜び」に満ちた

2年間を糧に

一歩ずつ！一歩ずつ！

「ない」から行くんだよ。」

これは、「研究するテーマが見つからないな」と口にした私に、大学院で学んだ経験のある先生がかけてくださった言葉です。

私は、令和3年度から2年間、新潟県教育委員会の派遣教員として上越教育大学大学院で学ぶ機会をいただきました。どんな質問にも丁寧に答えてくださる先生方との出会い、初めて挑戦する表現方法……大学院には、たくさんの「感動」が待っていました。大学院での学びを通して、私は、「授業に主体的な学びを阻む要素があるのではないか」「美術科の授業に対し、中学生はどのような印象を抱いているのか」という2つの疑問を抱きました。この疑問を明らかにするために、アンケート調査を実施し、先行研究や先輩の言葉をもとに授業実践をする中で、先輩の言葉が分かったような気がしました。研究したいテーマが見つからなかったのは、授業が上手くいっていたか

らではなく、日々の忙しさに流され学ぶことを忘れて、「分かったつもり」になっていたからでした。この研究を通して、教材研究を丁寧に行い「生徒と体験を共有する大切さ」や、ワークシートを通した生徒とのやりとりによって「学びを可視化させることや共有する意義」に気づきました。そして、生徒の行為の意図や思いを受け止めることで、これまでは見落としていた「主体的な学び」を見出す視点をもつことができました。

現在では、学校支援プロジェクトを通して大学院と連携する機会があります。今年度は、大学院時代の指導教員の五十嵐史帆先生の研究室と連携し、イラストレーター・アートディレクターの大塚いちおさんを東頸中学校にお招きし、お話をお聞きする機会ができました。大学院との連携は、私にとって「挑戦する勇氣」となり、生徒が新たな学びの扉を開く原動力となっています。

横尾 夏奈子
(よこお かなこ)

新潟県上越市出身。玉川大学文学部芸術学科卒業。平成22年から新潟県の公立中学校教員として勤務。令和3年度から2年間、上越教育大学大学院修士課程学校教育深化コース（芸術深化・美術）に在籍。令和5年、第62回大学美術教育学会香川大会で研究を発表。令和6年度より上越市立東頸中学校に勤務。



満ちた時間でした。そして、「中学校で美術教師として生きていく喜び」を見つけた時間でもありました。このような機会をいただいたことに感謝し、大学院での学びを糧に、「主体的な学び」を促す授業を目指して一歩ずつ頑張ります！

退職教員から皆さんへ



芸術・体育・教科横断・
総合教育学系

教授 時得 紀子

プロフィール

1992年4月、助教授として着任。
准教授を経て、2012年4月、教授
に就任。専門は音楽教育の国際
比較研究、音楽科と教科横断的
な学習。

皆様への感謝を込めて

6年間の米国（N Y市）留学から帰国後、私学を経
て本学に勤務いたしました。これまで、多くの方々と
のかけがえのない出会いに恵まれ、支えていただきま
した。本当にありがとうございました。家族の住む東京、
実家のある長岡、勤務する上越の3か所を長らく往来
して参りました。4月からも本学で研究職に専念しな
がらの往来生活が続きます。今後ともよろしく願い
いたします。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げ
ます。



自然・生活教育学系

教授 山崎 貞登

プロフィール

1992年8月、助教授として着任。
2003年10月、教授に就任。専門
は、技術科教育、生物育成の技
術、STEAM教育。

本学で32年7ヶ月お世話になったお礼

52歳で大病になり、命の危機に直面しましたが、教
職員の皆様の心温まる御支援により、再発を経ながら乗
り越えて、定年退職まで辿り着けそうです。足腰などに
障害は残りましたが、リハビリが功を奏し、ゆっくりと
した歩行ができるまでになりました。キャンパス内の朝
散策でリハビリをした際、四季折々の花や緑を楽しみ
ました。今後、首都圏の大学で教鞭を執りながら定員
充足キャラバンを展開し、本学に微力ながら貢献して
いきます。



人文・社会教育学系

教授 下里 俊行

プロフィール

1995年4月、講師として着任。
助教授、准教授を経て、2009年
4月、教授に就任。専門は歴史
学、思想史、社会科内容学。

豊かな自然・歴史・人々との交流に感謝

皆様と共に歩んできた30年は、私にとってかけがえ
のない時間でした。専門研究を深めるとともに、学生
たちの成長を間近で見守り、教職員の皆様と協力して
教育に携わることができたことは私の大きな喜びです。
本学と地域の皆様に心から感謝申し上げます。教育研
究だけでなく、社会貢献活動、国際交流、組合活動な
ど本学で得られた貴重な経験知を活かして退職した後
もグローバルなかたちで社会に貢献していきたいと思
います。



学校教育学系

教授 内藤 美加

プロフィール

1995年11月、講師として着任。
助教授、准教授を経て、2009年
4月に教授に就任。専門は教育
心理学、認知発達心理学。

風景が変わる

所属領域では修了する院生に「風景が違って見える
ようになりましたか」と言葉をかけていました。彼ら
の複眼的思考を願って。しかし在職の間、見る風景が
変わったのは私の方でした。異なる研究分野の人達
のおかげで専門を超えた広い世界を知り、事務職員の方
達と一緒に仕事をする中で違った景色に出会いました。
そうした自由で多様な視点を提供し許容する場が大学
なのでしょう。関係くださったすべての方々に感謝申
し上げます。



学校教育学系 教授 西川 純



発達支援・
心理臨床教育学系

教授 杉浦 英樹

プロフィール

1995年4月、助手として着任。講
師、准教授を経て、2014年9月、
教授に就任。専門は幼児教育。

素敵な自然と仲間に恵まれた30年間

人文棟6階の研究室からメインストリートの先に望
む八海山の方向が私の出生地でした。転居を重ね20
箇所めが上越で、30年間お世話になりました。四季お
りおり豊かに変貌する山、海、空のもとで、頼もしい
先生方、真摯な学生さん、そして堅実な事務職員の皆
様に支えられ、研究と指導に取り組むことができました。
深く感謝申し上げます。本学が変わらずこの国の
教育研究の一隅を照らし続けることを祈っております。



芸術・体育・教科横断・
総合教育学系

教授 小高さほみ

プロフィール

2017年4月、教授として着任。
専門は教師教育、家庭科教育学。

複数のアプローチのあるキャンパス

春は満開の桜、夏は朝の弁天池、秋は紅葉したメタ
セコイア、冬は深々と降る雪……この美しいメインア
プローチの先には、各学問体系につながるように複数のア
プローチが続いています。そのいずれかを選び研究室や
教室へと歩むたびに、創立時に思いを馳せ、本学にて教
員養成に携われる幸せに感謝してまいりました。この豊
かなキャンパスにてめぐり合った教職員の皆様はじめ、
学生の皆様、ゼミ生、地域の皆様に心より感謝申し上げ
ます。



芸術・体育・教科横断・
総合教育学系

教授 松本 健義

プロフィール

1997年4月、助教授として着任。
准教授を経て、2010年4月、教授
に就任。専門は学習臨床学、芸術
教育学、総合的学習、幼児造形
教育。

学びのよろこび

幼小中高特別支援学校、美術館、本学附属学校園、
大学で、子どもたち、先生方、作家、館長、学芸員、
受講生、ゼミの皆さんと、原っぱ、青田川、妙高、海、
教室、美術館などで、ものや場や活動をつくり・つく
り変え・つくり変わるよろこびを、共に深く経験する
ことができました。ありがとうございました。教職員の
皆様には28年間たいへんお世話になりました。心よ
り感謝申し上げます。皆様のご健康と本学のご発展を
願っております。



J-style 通信

習うは一生

学長 林 泰成



2025年3月に卒業・修了される皆さん、誠におめでとうございます。本学の大学および大学院での学びを終えてそれぞれの場に巣立ってゆく皆さんは、すでに教員や心理臨床家としての基礎的な知識と技能を身に付け、新しい職場においても活躍が期待されていることでしょう。

今後ますますのご発展をお祈りしています。さて、日本では、教職課程を設置している大学で教員免許を取得できるようになっています。しかし、より高度な学びのために、大学の上に大学院が設置されています。学校教育法の第99条でも、「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする」と記されています。

また、教職や心理職の養成では、常に現場・臨床の場との連携を考えなければなりません。その仕掛けのひとつが、本学の場合は、本号の特集テーマでもある「学校支援プロジェクト」なのです。プロジェクトの中身については、本号の他の記事をご覧くださいと思います。ですが、これは、地域の教育委員会や校長会、各学校園のご支援・ご協力なくして成立しえず、関係者の皆さんには感謝申し上げます。

卒業・修了されても、学びはこれでありではないです。「習うは一生」という言葉もあります。人生そのものが学びの場なのです。学び続けることを忘れないでください。

上教大 なんでも 掲示板

2位

学部教員就職率
12年連続 80%以上・
全国5位以内達成は
本学のみ！

学部教員就職率83.7%! 全国第2位

文部科学省が公表した国立の教員養成大学・学部の令和6年3月卒業者の教員就職率において、本学は83.7%（卒業から大学院進学者と保育士就職者を除いた数を母数とした場合）で、全国44大学・学部中、第2位となりました。教職大学院（大学院専門職学位課程）令和6年3月修了者の教員就職率は84.3%でした。

NGT48の杉本 萌さんが出演する 本学紹介動画を公開

NGT48の杉本 萌さんが出演する本学紹介動画を公開しました。この動画では、杉本さんがリポーターとして在学生や教職員にインタビューを行っており、本学の魅力や、令和6年度にスタートした新潟次世代教員養成プログラムの概要が分かる内容となっています。ぜひご覧ください。



◀「新潟次世代教員養成プログラム」紹介ページ
（動画へのリンクもあります）



（写真左から）動画出演の在学生（2名）とNGT48の杉本 萌さん



「食の応援クーポン券」事業で学生支援を実施

本学では、令和6年10月1日（火）から12月26日（木）にかけて、学生に対する経済的支援事業として、食堂及び売店における「食の応援クーポン券」事業を実施しました。

この事業は、上越教育大学基金を基に、学生への経済的支援及び食事を通じた健康管理に資することを目的として実施されました。令和2年から実施していた「学生応援200円ランチ」をさらに学生が利用しやすい形にするべく、食堂及び売店の商品購入時に250円の割引を受けることができるクーポン券を配付し、割引を行ったものです。

事業実施後のアンケートでは、「物価高騰で生活が苦しい中、とても助かりました」「好きなときに使えるクーポン券形式がとても良かった」といった声が多数寄せられました。

第17回 辰野千壽教育賞の選考結果

令和6年10月4日（金）に第17回（令和6年度）辰野千壽教育賞授与式を挙行し、優秀賞1名に賞状を授与するとともに副賞を贈呈しました。同教育賞は、初代学長である故 辰野 千壽先生の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与える優れた教育・研究の振興に貢献するため創設されたもので、初等中等教育諸学校等の教育現場における特色ある実践研究及び先進的取組を讃え、更なる発展に向け支援することを目的としています。

●優秀賞

氏 名	所属・職名等	主題及び副題
窪谷 理	茨城県潮来市立延方小学校教諭	身近な自然の教材化とその教育実践 ～小学校理科専科教員としての取組～



受賞者の窪谷さん（写真中央左）、
林 泰成学長（写真中央右）

辰野千壽教育賞の詳細はこちら▶



インタビュー 大学院で輝く人

大学院2年
学校教育研究コース
道徳・進路・生徒指導領域
高橋 拓夢さん

入学動機と 大学院での学び

私は学部時代に「子どもたちは学ぶ目的・意義をどのように持つのか」ということを中心的なテーマとして研究をしてきました。その中でキャリア教育に出会い、キャリア教育を中核に、より高度な知識・授業実践力を養い、理論知と実践知を深い次元で結びつけながら教職に携わっていきたくと強く考えるようになりました。そのことがきっかけとなり、上越教育大学大学院への進学を決意しました。

ここでは「理論と実践の往還」を大切にし、様々な「知」を学ぶことができています。また学校支援プロジェクトでは、実際の現場で起きている課題に中・長期的に向き合い、「キャリア教育」の視点から現場の先生方と協働し、課題解決に取り組んでいます。

所属するゼミでは、指導教員や教育に熱い情熱を持つ仲間たちと刺激し合いながら学びを進めています。

また、学会への参加や他の大学院との交流など、学外にも学びの場を広げ、新たな視点や考えを吸収することができています。

研究成果

大学院では、学習内容と現実世界の有機的なつながりを子どもたちが実感できるよう、キャリア教育を中心に「子どもたちが、学ぶ目的・意義を見出せる教育実践」について、研究を進めてきました。その一環として行った「学習レリバンスが受験競争観に与える影響」をテーマとする研究では、大学入試場面における競争の影響を肯定的に捉える成長型競争観を持つ学習者は、教科ごとに学ぶ意義を持っていることを見出し、学修成果報告書にまとめることができました。

終わりに

来年度からは学校現場に活動場所を移します。そこでも大学院で大切にされている「理論と実践の往還」

の精神を忘れず、学び続ける姿勢を持って研究及び教育実践に取り組んでいきたいと思っています。



インタビューを終えて

高橋さんの「大学院での研究を教育の現場で生かしたい」という強い思いが伝わってきました。何事にも熱心に取り組む彼の高い志に触れたような気がします。来年からは同じ教師として切磋琢磨していきましょう！

■ 聞き手・文(写真左より)

大学院2年
学校教育研究コース 道徳・進路・生徒指導領域
佐藤 皓
川畑 紗衣
(中央・本人)
水野 皓太



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様に粗品をお送りいたします。

